

4 地震・津波防災教育のための資料一覧

3章にとりまとめた授業計画案で用いた資料の一覧を以下に示します。またこの手引きに掲載されていない独自の津波防災授業を企画・実践する際にも活用してください。

4.1 動画一覧

(1) 2011年東日本大震災（東北地方太平洋沖地震）の津波襲来の様子に関する動画



(2) 2004年インド洋津波襲来の様子に関する動画




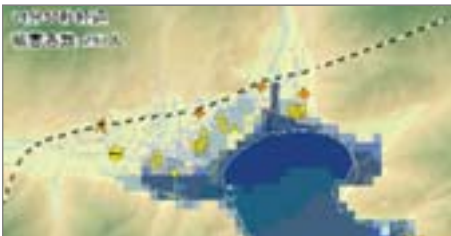



(3) 想定東海・東南海・南海連動地震が発生した場合の津波シミュレーション結果に関する動画

		
【動画-07】 [1:00] 想定東海・東南海・南海連動地震津波sim 【1】「西日本全体」	【動画-07】 [1:00] 想定東海・東南海・南海連動地震津波sim 【2】「尾鷲市(北側)」	【動画-07】 [1:00] 想定東海・東南海・南海連動地震津波sim 【3】「尾鷲市(南側)」

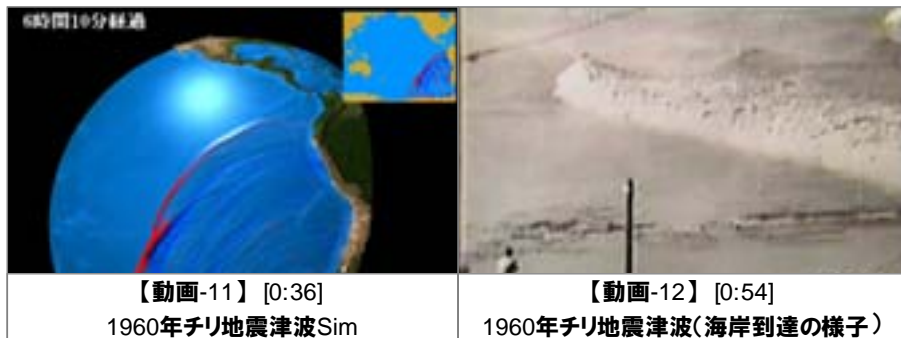
(4) 想定東海・東南海・南海連動地震津波襲来時の避難シミュレーション結果に関する動画

(現状再現シナリオ: マスコミ=1分後/屋外スピーカー=3分後/広報車=3分後/避難開始=情報取得20分後)

※他のシナリオについては、インターネットにて『尾鷲市動く津波ハザードマップ』を閲覧ください

		
【動画-08】 [1:00] 想定東海・東南海・南海連動地震津波sim 【1】「市街地周辺」	【動画-08】 [1:00] 想定東海・東南海・南海連動地震津波sim 【2】「大曾根浦・行野浦周辺」	【動画-08】 [1:00] 想定東海・東南海・南海連動地震津波sim 【3】「須賀利町周辺」
		
【動画-08】 [1:00] 想定東海・東南海・南海連動地震津波sim 【4】「小脇町・名柄町・三木里町周辺」	【動画-08】 [1:00] 想定東海・東南海・南海連動地震津波sim 【5】「古江町・賀田町・曾根町・梶賀町周辺」	【動画-08】 [1:00] 想定東海・東南海・南海連動地震津波sim 【6】「九鬼町周辺」
		
【動画-08】 [1:00] 想定東海・東南海・南海連動地震津波sim 【7】「早田町・三木浦町周辺」	【動画-09】 [1:15] 津波CG(尾鷲市街地に津波が襲来)	【動画-13】 [0:30] 防波堤の整備効果Sim

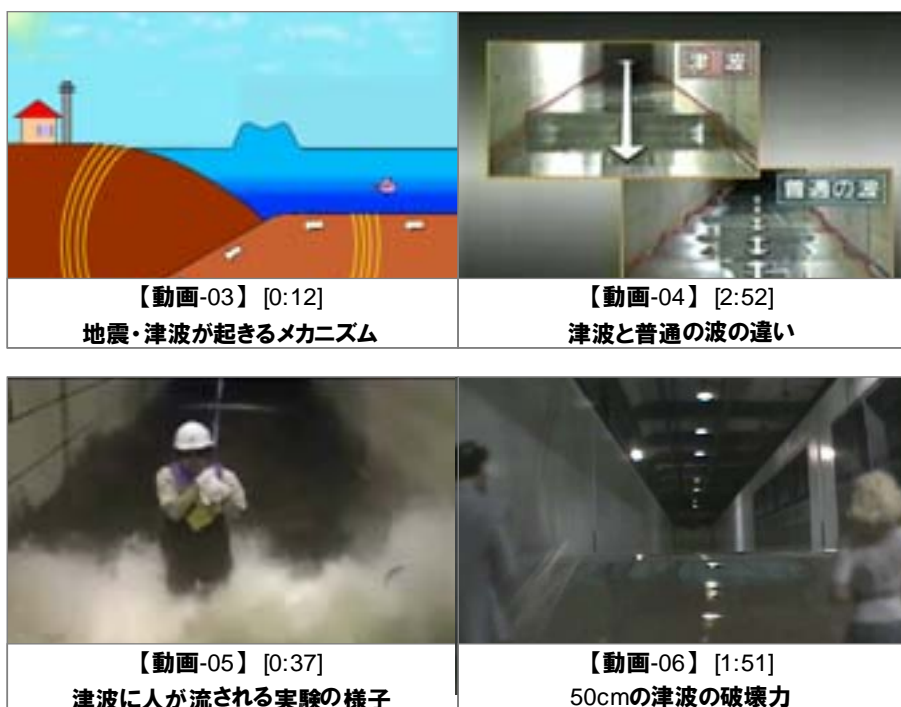
(5) 1960年チリ地震津波に関する動画



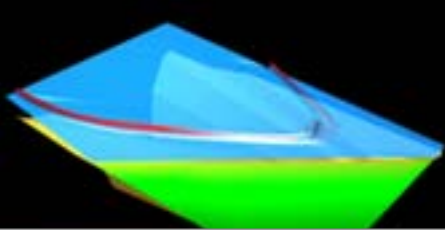
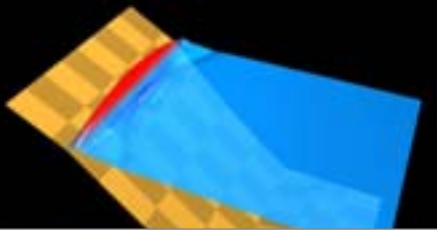
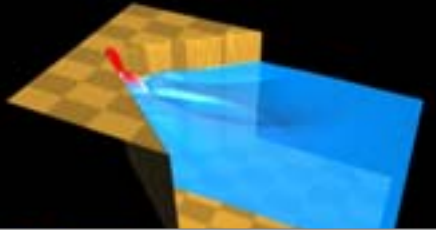
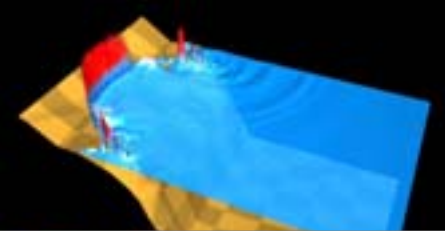
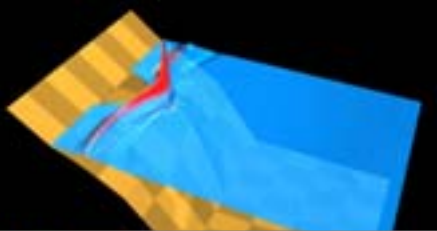
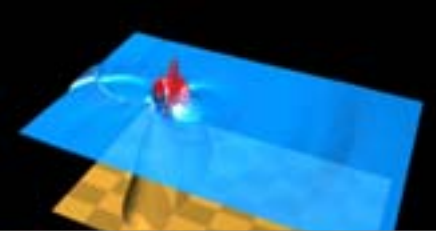
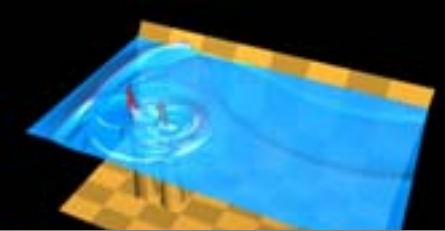
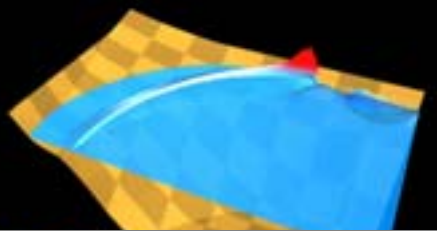
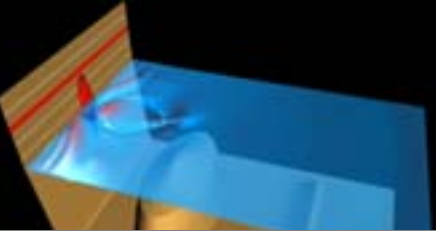
(6) その他（地震発生時の様子に関する動画など）



(7) 地震・津波の特徴に関する動画



(8) 津波の様々な特徴に関する動画

		
【動画-10】 [0:25] 津波の様々な特徴 【1】「深いほど速い」	【動画-10】 [0:30] 津波の様々な特徴 【2】「浅くなると高くなる」	【動画-10】 [0:30] 津波の様々な特徴 【3】「湾奥で高くなる」
		
【動画-10】 [1:18] 津波の様々な特徴 【4】「湾内に繰り返してやってくる」	【動画-10】 [0:30] 津波の様々な特徴 【5】「岬の先で高くなる」	【動画-10】 [0:30] 津波の様々な特徴 【6】「島は高くなる」
		
【動画-10】 [0:30] 津波の様々な特徴 【7】「陸と島で反射する」	【動画-10】 [1:21] 津波の様々な特徴 【8】「境界波」	【動画-10】 [0:20] 津波の様々な特徴 【9】「レンズ効果」

(9) 避難できない人間の心理に関する動画

	
【動画-15】 [2:10] 避難できない人間の心理 【1】「避難しなかった例」	【動画-15】 [2:34] 避難できない人間の心理 【2】「避難した例」
	
【動画-15】 [2:40] 避難できない人間の心理 【3】「集団同調性バイアス」	【動画-15】 [2:53] 避難できない人間の心理 【4】「率先避難者」

4.2 写真一覧

(1) 過去の被災時の状況に関する写真



【写真-01】 [17枚] 1944年
昭和東南海地震津波による尾鷲市の被害



【写真-02】 [-枚] 1960年
チリ地震津波による尾鷲市の被害



【写真-03】 [13枚] 1993年
北海道南西沖地震による奥尻島の被害



【写真-04】 [11枚] 2004年
新潟県中越地震による被害



【写真-06】 [5枚] 2008年
岩手・宮城内陸地震時の被災状況



【写真-05】 [5枚] 2004年
インド洋津波災害によるインドの被害



【写真-07】 [17枚] 2011年
東日本大震災による釜石市の被害

(2) 防災施設等に関する写真



【写真-08】 [9枚]
横引ゲート、水門、防波堤



【写真-12】 [1枚]
津波緊急避難ビルの例



【写真-09】 [4枚]
津波監視カメラ



【写真-10】 [1枚]
ソーラ式避難誘導灯

(3) 防災訓練・避難訓練に関する写真



【写真-11】 [19枚]
総合防災訓練の様子



【写真-14】 [8枚]
学校における避難訓練の様子

(4) その他




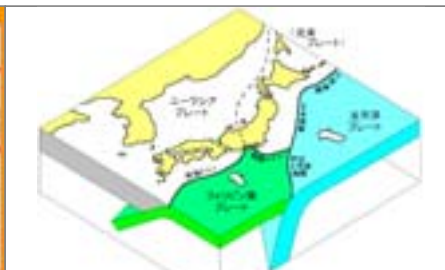
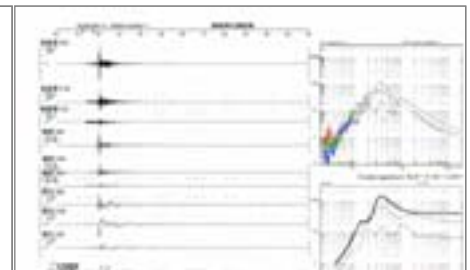
【写真-13】 [-枚]
尾鷲市内にある石碑

4.3 資料一覧

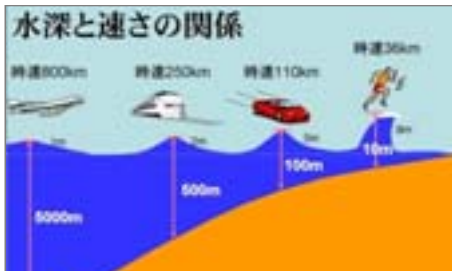

(1) 尾鷲市に関する資料

	<p>●尾鷲市における主な津波被害</p> <p>尾鷲市においては、昭和半葉に3回、津波による大きな被害を受けました。特に昭和19年12月7日に発生した東南南海道による津波の被害が大きく、死者・行方不明者65人、浸した家屋818棟、全壊・半壊家屋1,293棟、浸水家屋2,317軒に達しました。この時の津波の波高は、最大で6mにも達しました。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>津波</th> <th>発生年月日</th> <th>発生/伝来方向</th> <th>尾鷲市被害</th> <th>死者・行方不明者</th> <th>浸水家屋</th> <th>全壊・半壊家屋</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>東南海道津波</td> <td>昭和19年12月7日</td> <td>E-W</td> <td>11棟</td> <td>65人</td> <td>818棟</td> <td>1,293棟</td> </tr> <tr> <td>東南海道津波</td> <td>昭和21年12月16日</td> <td>E-W</td> <td>24棟</td> <td>---</td> <td>37棟</td> <td>---</td> </tr> <tr> <td>アツタ津波津波</td> <td>昭和29年1月22日</td> <td>---</td> <td>7棟</td> <td>11名</td> <td>10棟</td> <td>---</td> </tr> </tbody> </table> 	津波	発生年月日	発生/伝来方向	尾鷲市被害	死者・行方不明者	浸水家屋	全壊・半壊家屋	東南海道津波	昭和19年12月7日	E-W	11棟	65人	818棟	1,293棟	東南海道津波	昭和21年12月16日	E-W	24棟	---	37棟	---	アツタ津波津波	昭和29年1月22日	---	7棟	11名	10棟	---	<p>海溝型地震の長期評価(今後30年以内)</p> <p>2003年発表</p>  <ul style="list-style-type: none"> 北海道北西部 M7.8程度 0.006~0.1% 根室沖 M7.5程度 3%程度 秋田県沖 M7.5程度 3%程度 松田県沖 M7.5程度 3%程度 徳島県北方沖 M7.8程度 3~6% 安芸灘~伊予灘~豊後水道 M7.6前後 40%程度 日向灘 M7.6前後 10% 根室沖 M7.5程度 30~40% 根室沖~十勝沖 M7.1程度 80% 三陸沖北部 M8.0前後 0.06~8% M7.1~7.6 90%程度 宮城県沖 M7.5前後 99% 茨城県沖 M6.8前後 90% 三陸沖~房総沖(海溝帯) M8.2程度 20%程度 東南海道 M8.0程度 いつ起きてもおかしくない 京南海道 M7.6前後 20%
津波	発生年月日	発生/伝来方向	尾鷲市被害	死者・行方不明者	浸水家屋	全壊・半壊家屋																								
東南海道津波	昭和19年12月7日	E-W	11棟	65人	818棟	1,293棟																								
東南海道津波	昭和21年12月16日	E-W	24棟	---	37棟	---																								
アツタ津波津波	昭和29年1月22日	---	7棟	11名	10棟	---																								
<p>【資料-01】 [12枚] 尾鷲市防災マップ</p>	<p>【資料-07】 [2枚] 尾鷲市の過去の地震・津波被害</p>	<p>【資料-08】 [3枚] 今後30年間の地震発生確率</p>																												

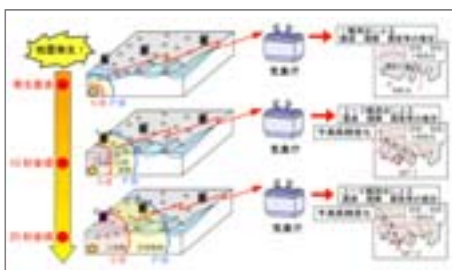

(2) 地震に関する資料

		
<p>【資料-02】 [4枚] 地震分布とプレートの関係</p>	<p>【資料-03】 [1枚] 日本周辺のプレート</p>	<p>【資料-04】 [3枚] 地震の波形</p>


(3) 津波に関する資料

<p>水深と速さの関係</p>  <p>水深800m 水深250m 水深110m 水深10m 水深1000m</p> <p>時速30km 時速110km 時速250km 時速800km</p>	<p>湾の奥では波が高くなる</p>  <p>津波の進行方向</p> <p>押し込まれて、盛り上がる!</p>
<p>【資料-05】 [2枚] 津波の速さと波長</p>	<p>【資料-06】 [4枚] 津波が高くなる理由</p>



(4) 地震・津波対策に関する情報

	
<p>【資料-09】 [4枚] 津波・避難情報、緊急地震速報、Jアラート</p>	<p>【資料-11】 [1枚] 津波に関する標識</p>

(5) 避難に関する資料

	<p>津波からにげるポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> ○地震がおきたら、すぐに行動 →早めに行動しないと逃げ遅れてしまいます ○とにかく高いところへ →早動であれば、床から4階建て以上の建物へ ○海から遠いところはダメ →津波は海を伝わって来るから、高いところへ ○一度高いところ避難したら、おいてこない →津波は再び押し寄せたりすることがあります <p>○どこににげるのかをきめておく!</p>	<p>たとえ大きな地震が発生したり、避難勧告が発表されても、多くの方はなかなか避難することができない!</p> <p>①宮城県気仙沼市の例 (とても大きなゆれだったのに・・・)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成19年5月26日 1824頃 宮城沖を震源とするM7.0の地震発生 ・津波警報や避難情報が発せられたが、気仙沼市は震度5弱のゆれ ・気仙沼市民の津波避難率は・・・わずか1.7% <p>②三重県尾鷲市の例 (11日2日連続だったのに・・・)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成19年9月5日 19:07頃 紀伊半島沖を震源とするM6.9の地震発生 ・尾鷲市では震度のゆれを観測し、津波注意報が発表された ・尾鷲市民の津波避難率は・・・0.4% <p>③釜石市の例 (情報がたくさん発表されたのに・・・)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成18年11月1日 2015頃 千歳列島を震源とするM8.1の地震発生 ・釜石市ではほとんどゆれがなかったが、津波注意報と避難指示が発表された ・津波の被害を受けやすい可能性のある地域のうち、家数の半かが避難したのは、わずか0.7%
<p>【資料-10】 [8枚] 地震時に身を守るための正しい行動</p>	<p>【資料-12】 [1枚] 津波避難のポイント</p>	<p>【資料-13】 [4枚] 津波避難率</p>

(6) 伝承に関する資料

<p>語り伝え</p> 	<p>2004年インド洋津波から、古い言い伝えが島民救う</p> <p>インド洋津波の死者・行方不明者は、全世界で23万人以上</p> <p>「海水が引いたら高台に逃げろ」という歌謡が伝統的な教えとして住民の間に語り継がれていた。この教えを「スモン」とも呼んでいる。</p> <p>インド洋津波が襲来したときにも、島民らの古い伝えに従い、水が引いた際、すぐに丘へ避難したため、死者が少なかった。</p> 
<p>【資料-14】 [1枚] 生徒作文『語り伝えよ』</p>	<p>【資料-15】 [1枚] シムル島の言い伝え</p>

(7) その他

	<p>東日本大震災 津波浸水実績</p> 	
<p>【資料-16】 [4枚] 災害ボランティアの活動</p>	<p>【資料-17】 [2枚] 想定を超えた津波による浸水域</p>	<p>【資料-18】 [12枚] 津波!! 命を救った稲むらの火(書籍)</p>